

持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針

2025 年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとし、世界が一つの「場」に集う機会であるこの大阪・関西万博を契機として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや価値創造を促進することを目指している。

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会（以下「博覧会協会」という。）は、万博の開催準備、運営を通じて、「いのち」という原点に立ち戻り、自らと他者の「いのち」を意識し、そして自然界の中で生かされる様々な「いのち」に向き合い、世界が持続する未来を模索しながら、持続可能性の課題に対して新たなソリューションを提供する博覧会を開催する。

博覧会協会は、管理責任、包摂性、誠実性、透明性の 4 つの統治原則のもと、組織を運営する。

1. 管理責任：

会期前の計画段階から会期中の環境や社会への影響を適切に管理し、会期後から将来にわたって好影響を残せるように努める。

2. 包摂性：

国連の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられる「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals（以下「SDGs」という。））をはじめとする持続可能性の視点より、多様なステークホルダーからの意見を包摂する。

3. 誠実性：

来場者、参加者（企業、教育・研究機関、国・政府関係機関、国際機関、自治体、NGO/NPO、市民団体等）、その他多くのステークホルダーに対して誠実に行動することで、未来社会に向けた新たな価値創造のプロセスを公正に遂行する。

4. 透明性：

多面的な視点から、作業の妥当性を検証し、目標を設定することにより、多くの人の目に留まる情報発信の仕組みづくりを行う。

博覧会協会は、利害関係者のニーズと期待を理解し、法的及びその他の要求事項への遵守又は準拠を確実にする。

大阪・関西万博のテーマである「いのち」を考える軸として、我々は、「Saving Lives（いのちを救う）」、「Empowering Lives（いのちに力を与える）」、「Connecting Lives（いのちをつなぐ）」という 3 つのサブテーマを設定する。これらのサブテーマをもとに、次の 5 つの大目標を掲げ活動の方向性を示す。

1. People（いのち、ひと、健康、福祉）：
生態系を構成するすべての「いのち」を守り育てることの大切さを訴求する。
【目指すべき方向】
大阪・関西万博は「Society5.0」の実現や社会課題の解決に向け、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを実現するアプローチとして「People's Living Lab」というコンセプトを採用し、いのちや食、学び等の多様な価値が創出されるよう取り組む。
2. Planet（生態系、環境）：
国際的合意（パリ協定、大阪ブルー・オーシャン・ビジョン）の実現に寄与する会場整備・運営を目指す。
【目指すべき方向】
 - ① 省 CO₂ ・省エネルギー技術の導入や再生可能エネルギー等の活用により、温室効果ガス排出量の抑制に徹底的に取り組む。
 - ② リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）可能な部材等を積極的に活用する3R、またリニューアブル（Renewable）な資材調達に取り組み、資源の有効利用を図る。
 - ③ 沿岸域における生態系ネットワークの重要な拠点として、会場内の自然環境・生態系の保全・回復に取り組む。また「ポスト 2020 生物多様性枠組」の交渉経緯を注視しそれに則った取組を検討する。
3. Prosperity（サプライチェーン、バリューチェーン）：
「もの」だけでなく、「生活」を豊かにし、可能性を広げることにつながる社会や環境に関する知見をレガシーとして、次世代に継承する。
【目指すべき方向】
 - ① 持続可能な調達コードを遵守したサプライチェーンを構築し、加えて資源の循環的な利用及び処分までの過程を含むバリューチェーン全体を通じた持続可能性に配慮する。
 - ② 会場の整備・運営において、民間企業と連携することにより、地域産業の活性化に寄与する。
4. Peace（平和、公正、インクルーシブネス）：
多様な人々が積極的に、また安心して参加できる環境を整えるとともに、大阪・関西万博からテーマに基づく多様な考え方を発信できるよう、一人一人を尊重したインクルーシブな万博運営を目指す。
【目指すべき方向】
 - ① 国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に則った万博運営を実現する。
 - ② 万博の準備・運営に関わる多様な人々の健全で良好な就業環境の確保等に取り組む。
5. Partnership（協働）：
誰もが参加でき、自由にアイデアを交わせる機会を提供する。その中で一人一人がつながりコミュニティが形成されることを目指す。

【目指すべき方向】

企業、教育・研究機関、国・政府関係機関、国際機関、自治体、NGO/NPO、市民団体等と共に、大阪・関西地域を中心とした日本の魅力を世界へ発信する。また、会期前から多様な参加者がそれぞれの立場からの取り組みを持ち寄り、SDGs 達成に資するチャレンジを会場内外でおこない、未来社会をただ考えるだけでなく、行動することによってリアルに描き出そうという試みを大阪・関西万博の特徴とする。

博覧会協会は、本方針を実現するために、国際標準規格の ISO20121 をベースとした Event Sustainability Management System (ESMS) を組織内に構築する。具体的には、博覧会協会が取り組むべき重要課題と目標を設定し、各実施主体が責任をもって取り組む持続可能性の計画を定め、成果の監視及び評価並びに改善を継続して実施するとともに、関連するステークホルダー向けに定期的な報告を行う。

必要に応じた ESMS の継続的な改善や、適切な資源及び年齢、性別、国籍等様々な視点から多様な人材の投入、十分な教育の実施により、方針実現に向け組織一体となって取り組んでいく。

また博覧会協会は、本方針実現に向けて自らが取り組むことにより、ステークホルダーそれぞれの考え方に変化を起し、会期後の行動変容に繋げる。また、今後、大阪・関西万博の計画を具体化していくにあたっては、今後のまちづくりを担う次世代に飛躍の機会を提供する。また大阪・関西万博は、COVID-19 を乗り越えた先の、新たな時代に向けた国家プロジェクトであり、テーマの下で行われる持続可能性配慮の活動は、SDGs と合致するものである。

事務総長（代表理事）石毛 博行
（署名）

